

【村山発言メモ：Kavli 財団に係るプレスリリース(H24.2.8 11:00-)】

東京大学 国際高等研究所 数物連携宇宙研究機構、略称 IPMU の機構長をしている村山です。

ご存知の通り、IPMU は文部科学省の世界トップレベル研究拠点プログラム、略称 WPI で生まれました。名前の通り、数学と物理を連携して、宇宙を研究する機構です。小さい子供が空を見上げて思う様な素朴な疑問、宇宙はどうやって始まったのか、終わりはあるのか、何で出来ているのか、その法則は何で、どうして私たちが存在するのか、こうした疑問にサイエンスの力で迫ることが目的です。そのためには数学者、物理学者、天文学者を世界中から集め、英知を結集する必要がありました。

2007 年の 10 月にゼロから出発しましたが、年々人が集まり、現在では専任研究者が 70 人以上、その半分以上が外国人という研究機構に成長しました。既に面白い研究成果が続々と出ています。例えば助教の John Silverman のグループは、銀河同士が近づくと超巨大ブラックホールが成長することを観測的に示しました。また准教授の吉田直紀のグループは、宇宙初期の水素とヘリウムのガスが集まって最初の星を作り、太陽の 40 倍程の重さまで成長し、中心で私たちの体を作る炭素・酸素・鉄等を元素を作ることをコンピューター・シミュレーションで示しました。そしてポスドクの Domenico Orlando と Susanne Reffert は、矛盾のない量子重力の理論の可能性を示しました。

こうした魅力的な研究と国際性が評価され、今回名門大学にしかないカヴリ研究所の仲間入りをさせていただくことは、大変な名誉です。また、IPMU が得た国際的なビジビリティの証拠になったと考えています。加えてカヴリ財団からの寄附は基金であり、その運用益から「未来永劫」研究費のサポートを得続けることのメリットは計り知れません。例えば競争的資金を取りにいく程までは成熟していない新しい研究開発のアイデアを育てたり、優秀な研究者をリクルートするための資金として使っていくつもりです。

これからは、いずれ WPI の資金が終了した後の運営資金を、どう確保していくのかが焦点です。今回の基金と同じ様なモデルで、冠教授や冠フェローの給料を運用益から出せる様な基金を更に増やしていきたいと願っています。これからもよろしくお願い致します。